令和元年８月 22 日
教育委員会８月定例会
報告事項
学校教育部教育指導課

学力・学習状況調査の結果について

Ⅰ　令和元年度(2019 年度) 横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について

平成 31 年４月 11 日(木)～19 日(金)に、小学校３～６年生と中学校１～３年生を対象に「横須賀市立小・中学校学習状況調査」を実施しました。

横須賀市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

１．調査の概略

（１）調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

（２）調査内容

小学校３年生：①国語（聞き取り　有）　②算数
※各教科小学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校４年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校３年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校５年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校４年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校６年生：①社会　②理科
※各教科小学校５年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校１年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
※各教科小学校６年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校２年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
⑤外国語（リスニング　有）
※各教科中学校１年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校３年生：①社会　②理科
※各教科中学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

（３）公表について

・序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

2．教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について示しています。また、横須賀市の結果と共に、調査全体の数値を載せています。

※調査全体について：

同じ問題を受検した全国の児童生徒全体です。学年や教科によって異なりますが、母数は概ね 13 万人から 20 万人となっています。

3．横須賀市立小学校の結果

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校３年生】

	国　語			算　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	68.5	69.6	63.9	69.5	74.9	43.4
調査全体	73.7	75.7	65.5	74.5	79.5	50.5

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校３年生）

【国語】

全体的に調査全体を下回っています。

領域別に見ると、「書くこと」については、昨年度も課題となっていましたが改善が見られず、本市の国語における大きな課題であるといえます。

また、漢字の書き取りについても課題が見られ、一度習った漢字を繰り返し使う場面を設定すること、家庭学習課題を工夫すること等、児童の実態に即した指導が必要であると考えられます。

【算数】

「数の大小と不等号の意味の理解」、「分数の大きさの意味の理解」、「加法の結合法則を理解し、式の意味を考えること」、「身近なもののかさの単位についての理解」、「直角三角形の特徴の理解」といった内容について、課題が見られました。

課題がみられた単元や領域を中心に、児童の学習の定着状況を踏まえた授業づくりを進めていくことが求められます。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校４年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	61.1	63.5	50.6	61.8	65.4	47.3
調査全体	68.1	71.3	53.7	65.3	68.0	53.6

	算　数			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	69.0	75.2	47.4	58.2	60.6	50.2
調査全体	74.6	80.2	54.7	64.7	67.4	55.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校４年生）

【国語】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のうち「言葉の学習」に関わる部分と、「書くこと」（作文）について、課題が見られました。

小学校３年生と同様に、児童の実態に即した指導の工夫及び改善が必要であると考えられます。

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。

特に活用においては、調査全体を５ポイント以上、下回りました。また、観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的な用語・記号等の理解に課題が見られ、調査全体を大きく下回っている問題がありました。

記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高くなるといった課題も見られます。

【算数】

全体的に調査全体を大きく下回る結果となりました。

問題別では、昨年度改善が見られた「文章問題を解くためのわり算の式」に関する問題で、本年度は調査全体を大きく下回る結果となりました。また、「整数から小数第一位の数を引くひき算」、「数の相対的な大きさの理解」、「分数の数直線上での表し方」、「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する」問題では、昨年度に引き続き、本年度も課題が見られました。

【理科】

全ての領域で、調査全体を下回る結果でした。

特に、「こん虫のからだのつくり」、「こん虫のそだち方」、「じしゃくのせいしつ」については、調査全体を大きく下回っています。また、学んだことを日常で見られる事象に当てはめて考えたり、活用したりすることにも課題が見られました。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校５年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	67.1	69.8	55.0	51.9	50.6	57.0
調査全体	73.8	76.6	61.2	58.5	57.7	62.2

	算　数			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	59.9	64.2	42.8	62.3	66.7	47.2
調査全体	67.3	71.8	49.2	68.8	73.0	54.2

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校５年生）

【国語】

読むことのうち説明文の段落のまとまりの理解、第４学年配当漢字の書き取り、「書くこと」（作文）に課題が見られました。

また、漢字の書き取りにおいては、各学校の正答率の状況を踏まえ、指導方法の見直しや課題の出し方の工夫が必要です。

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。

特に、基礎においては、調査全体を７ポイント以上、下回っており大きな課題です。観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られます。特に、「県の様子」領域では、47 都道府県の名称と位置、地図の活用について、調査全体を大きく下回りました。また、資料を読み取ること、読み取った情報をもとに考えたり、表現したりすることにも課題が見られます。調査後半の無解答率が高くなっていくなど、昨年度までと同様の課題も見られました。

【算数】

調査全体を大きく下回る問題が多いという、昨年度の全体的な課題点について、改善が見られませんでした。

児童の学習の定着状況や課題点等を十分に分析や把握をした上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業改善が求められます。

【理科】

全ての観点で、調査全体を下回る結果でした。

特に、「自然の中の水」、「物のあたたまり方」、「電気のはたらき」の問題について課題が見られました。また、説明を記述する問題について、課題が大きいということも明らかになりました。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校６年生】

	社　会			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	61.5	61.0	63.5	57.7	63.7	39.7
調査全体	65.3	64.5	68.4	59.9	65.8	42.1

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校６年生）

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。特に、基礎について課題があるといえます。領域別では、「国土の自然などの様子」や「情報産業や情報化社会」に、特に課題が見られました。記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になると無解答率が高くなる傾向は、今年度も依然として課題となっています。

【理科】

全体的に調査全体を下回っています。

特に、「人のたんじょう」、「ふりこのきまり」、「けんび鏡の使い方」などの問題で、調査全体を下回り、課題が見られる結果となりました。

４．横須賀市立中学校の結果

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校１年生】

	国　語			社　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	66.4	68.4	59.9	62.1	63.3	56.5
調査全体	70.4	73.1	61.5	63.6	64.6	58.5

	数　学			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	68.0	70.1	60.4	56.6	63.8	40.9
調査全体	71.9	74.1	64.2	61.4	67.3	48.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校１年生）

【国語】

「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、今年度も課題が見られました。

学習指導要領を見ると、中学校１年生の指導事項は、小学校高学年の指導事項をほぼ踏襲していることがわかります。中学校での学びのスタートにあたって、小学校で指導を受けてきた生徒の現時点での領域別の習得状況を的確に把握し、特に弱い部分については計画的に指導を行っていくことが必要です。

【社会】

全体的に調査全体を下回る結果となりました。

領域別では、特に「我が国の歴史」、「我が国の政治」で、調査全体を下回っています。また、解答形式別では、短答問題や記述問題では無解答率が高くなる傾向が見られました。

【数学】

全体的に調査全体を下回る結果となりました。

特に、「底面積と高さから角柱の体積を求める問題」、「文字を使った式が表す場面を選ぶ問題」など、中学校１年生での学習につながる基礎的・基本的な問題の一部で課題が見られました。生徒の学習内容の定着の状況等を十分に分析や把握をした上での授業展開を目指していくことが求められます。

【理科】

全体的に調査全体を下回る結果となりました。

特に、「植物のつくりとはたらき」の日光とデンプンの実験や、「月と太陽」の三日月が見える時間について、「物の燃え方」についての問題では、調査全体を大きく下回る結果となり、課題が見られました。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校２年生】

	国語			社会			数学		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	63.4	64.0	61.5	60.1	63.6	46.9	49.4	53.8	31.9
調査全体	66.4	67.2	63.8	65.0	68.6	51.7	53.7	58.6	34.2

	理科			外国語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	52.8	51.8	55.4	57.6	62.8	44.5
調査全体	58.6	58.7	58.4	61.5	67.2	47.4

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校２年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」では概ね良好な結果であり、「書くこと」（作文）において、昨年度は約 30%であった無解答率が、今年度は 18.7%と、大幅に改善されましたが、「書くこと」領域全体としては、調査全体をやや下回る結果となりました。

また、今年度も課題となったのが、小学校で学習した漢字の書き取りと、文法の指導における「単語」の理解でした。学校では、これらの知識の指導が行われていますが、その知識が確実に使えるものとして定着していない状況であると考えられます。

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。

領域別では、「世界の地域構成」、「中世の日本」で調査全体を大きく下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答や無解答率が高くなっています。

【数学】

全体を通して調査全体を下回る問題が多く、課題が見られる結果となりました。

生徒の学習の定着状況を十分に分析し、把握した上での基礎的・基本的な知識及び技能のより確実な定着や、それらを活用する能力の育成を図る指導改善が求められます。

【理科】

全ての領域において調査全体を下回りました。

特に、「植物のからだのつくりとはたらき」、「気体の性質」、「火山」、「地層」などでは、調査全体を大きく下回りました。また、観点別では、「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」に課題が見られる結果となりました。

【外国語】

「聞くこと」については、対話の内容を聞き取って場面や状況を捉えて適切に応答することに課題が見られました。

「読むこと」については、対話の流れを理解し適切な代名詞を選ぶなど、内容に合うように語形・語法を選ぶことや、場面や状況を捉えて適切な疑問詞を用いた疑問文を考えることに課題が見られました。

「書くこと」については、場面を捉えて応答するような対話の流れに沿った英作文を書くことについては無解答率が高い傾向が見られるなど、理解が十分でない様子が見られます。また、日常生活でも用いるような使用頻度の高い単語を答える問題で無解答率が高くなっています。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校３年生】

	社　会			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	55.8	59.3	44.6	53.5	56.4	46.5
調査全体	56.3	60.0	44.6	55.9	59.3	47.6

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校３年生）

【社会】

全体的に調査全体とほぼ同程度でした。基礎に関しては、調査全体と１ポイント程度しか差が見られず、活用に関しては、調査全体と同じ正答率でした。領域別では、「世界と比べた日本の地域的特色」で調査全体を下回り、課題が見られました。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答や無解答率が高くなっています。

【理科】

全体的に調査全体を下回る結果となりました。

観点別に見ると「科学的な思考・表現」、「自然現象についての知識・理解」で調査全体を大きく下回り、課題が見られました。また、単元別では、「前線の通過と天気の変化」の前線に関わる内容や、「電流の性質」の熱量に関する問題については、調査全体を下回る問題が多く、課題が見られる結果でした。

５．今後の取組について

各学校においては、本学習状況調査および全国学力・学習状況調査の結果をもとに、自校の成果と課題を分析し、課題の改善に向けた取組を行っています。また、教育委員会では、各学校の取組に対する指導助言を行い、子どもたちの学力向上に向けた支援を行っています。

さらに、これまでの本学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果の分析から、子どもたちの学力向上には、家庭学習の取組等、学習習慣の定着とともに、基本的な生活習慣や家族とのコミュニケーションも大きく影響していることがわかってきています。そこで、学校と家庭が連携して取組を進めていくことが重要であると考えています。

教育委員会では、子どもたちの確かな学力を育成する上で、平成30年度から４カ年計画で策定した「横須賀市学力向上推進プラン」をもとに、学力向上に向けた学校、家庭、教育委員会の主たる取組を次のように定め、学校と連携・協力しながら取組を進めています。

【学校での取組】

◎「学校が取り組むべき３つの提言」

①学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。

②指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。

③学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

【家庭での取組】

・学習習慣をはぐくむ学習環境づくり
・家庭学習啓発リーフレット等を活用した学習習慣の確立
・学校の取組と連携した取組（生活習慣の改善等）

【教育委員会の取組】

・各学校が計画・作成する「学校重点プラン」への指導助言
・本学習状況調査の結果等を踏まえた各学校への指導助言
・子どもの学力向上を支援する取組（学習支援員の派遣等）
・学校と家庭との連携の推進（家庭学習啓発リーフレットの作成・配布等）

Ⅱ　平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

平成31年4月18日（木）に小学校6年生・中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

横須賀市では、本調査について、限られた教科および学年での実施であることやそれぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学校教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

1．調査の趣旨

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査内容

①教科に関する調査

＊小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学及び英語。

＊調査問題では、次のア、イを一体的に問うこととする。

ア．身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ．知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

＊出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

②児童生徒に対する質問紙調査

＊学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（3）その他

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の数値による結果については、市としても各学校としても公表はいたしません。

2．横須賀市立小学校の結果

（1）教科別平均正答率結果

(%)	国　語	算　数
横須賀市	56	63
神奈川県	61	67
全　　国	63.8	66.6

（2）各教科の概要

【小学校　国語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くこと（問題1 設問二）

・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることは、おおむね良好である。

□目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと（問題2 設問一（1）、設問二）

・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことや、目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読むことは、おおむね良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと（問題1 設問四（1））

・学習した漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

■接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと（問題1 設問四（2））

・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。

【小学校　算数】

<おおむね理解しているとみられる内容>

□基本的な平面図形について理解すること（問題1（1））

・台形についての理解については良好である。

□グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること（問題2（1））

・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることについては良好である。

□日常生活の事象から、伴って変わる二つの数量を見いだすこと（問題4（1））

・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことについては良好である。

<課題があるとみられる内容>

■図形の性質や構成要素に着目して、図形を構成すること（問題1（2））

・図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、他の図形を構成することに課題がある。

■複数の資料の特徴や傾向を関連付けることで見いだすことができる事柄から、数量の大小を判断して、その判断の理由を説明すること（問題2（3））

・二つの棒グラフから資料の特徴を読み取り、それらを関連付けて、判断の理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

■四則の混合した整数と小数の計算をすること（問題2（4））

・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。

■計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を表現すること（問題3（2））

・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述することに課題がある。

■場面の状況を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断すること（問題4（3））

・示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題がある。

（3）児童質問紙調査（小学校６年生）の結果概要（全 58 問）

①　概要

〔肯定的な回答が 90%以上の主な項目〕

○朝食を毎日食べている
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
○学校のきまりを守っている
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
○人の役に立つ人間になりたいと思う
○国語の勉強は大切だと思う
○算数の勉強は大切だと思う

〔課題と見られる主な項目〕＊全国平均と比較し、大きく差がある項目

●難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している 73.9〔全国 79.0〕）
●家で自分で計画を立てて勉強をしている（61.7〔全国 71.5〕）
●読書が好きである（68.8〔全国 75.0〕）
●今住んでいる地域の行事に参加している（61.8〔全国 68.0〕）
●地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（47.6〔全国 54.5〕）
●５年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う（72.3〔全国 77.7〕）
●国語の勉強が好きである（57.0〔全国 64.2〕）

②　質問紙調査からみられる傾向と課題

【学習】

「国語の勉強は大切だと思う」と「算数の勉強は大切だと思う」という項目でいずれも 90%以上の肯定的な回答があり、児童が学習の必要性を抱いていることは明らかとなりました。一方で、「国語の勉強が好きである」や「自分で計画を立てて勉強をすること」の項目については、全国と比べて５ポイント以上差が開いていることから、やるべき課題として出された学習には取り組むことができますが、自分から進んで学習をすることへの意識が低い傾向にあると捉えられます。児童に各教科のよさや楽しさを感じさせる授業づくりを進めることを通じて、何のために学習をするのかといった学習する意義をしっかりと自覚させることが大切であると考えられます。

【生活】

「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目では、昨年度より肯定的な回答の割合は増えましたが、依然として全国と比べて５ポイント以上差が開いています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という項目でも、全国と比べて５ポイント以上差が開いた結果でした。子どもたち自身も地域の一員であるという意識は、今後の学習においても大切です。学校での学習と共に家庭においても地域の行事に参加したり、地域の方と積極的に関わったりする機会を設けていただくよう促すことも必要となります。

３．横須賀市立中学校の結果

（１）教科別平均正答率結果

(%)	国　語	数　学	英　語※
横須賀市	71	57	56
神奈川県	73	59	59
全　　国	72.8	59.8	56.0

※英語については、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の結果

（２）各教科の概要

【中学校　国語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと
（問題1 設問三）

・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことは、おおむね良好である。

□書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること
（問題3 設問一）

・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはおおむね良好である。

□伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと（問題3 設問二）

・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことはおおむね良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

■文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること（問題1 設問二）

・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。

■伝統的な言語文化と国語の特質に関すること（問題1 設問四）

・封筒の書き方を理解して書くことに課題がある。

【中学校　数学】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□平面図形の移動の意味や特徴を的確に捉えること（問題3）

・図形の平行移動の意味の理解については良好である。

□三角形の合同条件の理解に関すること（問題7（1））

・三角形の合同条件の理解については良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

■関数を用いて事象を捉え考察すること（問題4）

・反比例の表から、２つの文字の関係を式で表すことに課題がある。

■簡単な場合について、確率を求めること（問題5）

・簡単な場合についての確率を求めることに課題がある。

■不確定な事象を考察する場面において、表を活用して数学的に処理すること（問題8（1））

・資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。

■不確定な事象を考察する際、数学的な結果に基づいて判断すること（問題8（3））

・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することに課題がある。

【中学校　英語】（「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」）

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□英語を聞いて情報の詳細を理解すること（問題1（1）、（2））

・語と語の連結による音変化を捉えて情報を正確に聞き取ることや、教室英語を理解して情報を正確に聞き取ることはおおむね良好である。

□話の概要を聞き取ること（問題2）

・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することはおおむね良好である。

□英語を読んで情報の詳細を理解すること（問題5（1））

・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることはおおむね良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

■英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くこと（問題9（1）②）

・文の中で適切に接続詞を用いることに課題がみられる。

（3）生徒質問紙調査（中学校３年生）の結果概要（全 69 問）

① 概要

〔肯定的な回答が 90%以上の主な項目〕

○学校の規則を守っている

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

○人の役に立つ人間になりたいと思う

〔全国と比較して肯定的回答が上回っている主な項目〕

○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（67.8〔全国 61.5〕）

○授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた（59.4〔全国 55.8〕）

○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う（46.8〔全国 41.3〕）

〔課題とみられる主な項目〕＊全国平均と比較し、大きく差がある項目

●家で自分で計画を立てて勉強をしている（43.6〔全国 50.4〕）

●読書が好きである（56.8〔全国 68.0〕）

●新聞を読んでいる（6.8〔全国 12.7〕）

●日本や住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う（54.3〔全国 59.3〕）

●数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（72.0〔全国 76.2〕）

② 質問紙調査からみられる傾向と課題

【学習】

「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」をはじめ、全般的に英語に関わる質問項目で肯定的な回答が高い状況となったことが、横須賀の生徒の特長であると捉えられます。

一方で、「自分で計画を立てて勉強している」という項目では、全国と比べて５ポイント以上差があり課題として捉えられます。これは「数学の授業で学習したことが役に立つと思う」という項目の肯定回答が低いことと関連して、学習に対しての意義を感じられていないといったことが一つの要因と捉えられます。各教科の学習において、自分たちが学習していることがどう活かされ、大切であるかといったことについても身に付けていくことが必要になります。

【生活】

学校の規則を守ることやいじめについての意識については、肯定的な回答が高い状況でした。昨年度に引き続き、規範意識が高いことがわかり、横須賀の生徒の特長であると捉えられます。

一方で、小学校６年生と同様に、地域との関わりに関する質問項目について、肯定的な回答は全国平均と大きく差が見られました。地域社会の一員といった意識を高めるためにも、学校、家庭で地域と関わる機会を持つことが大切となります。

４．全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取組について

本年度から、全国学力・学習状況調査の問題が、昨年度までの「Ａ問題」（基礎）と「Ｂ問題」（活用）を一体化したものに変更となったことから、昨年度との比較は難しい部分もありますが、本年度の結果を見ると、小学校の国語を除いては、全国平均正答率との差がマイナス５ポイント以内であり、ほぼ全国並みと捉えることができます。

また、本年度の中学校３年生が平成28年度に小学校６年生の時の調査と比較すると、各教科において伸びが見られ、各教科の力をしっかりとつけることができていると捉えられます。

一方で、今回の結果では、英語においては全国平均正答率と同等の結果となりましたが、国語および算数・数学においては小中学校ともに全国平均正答率を上回る教科はなく、課題があると捉えられ、引き続き課題解決を図っていく必要があると考えられます。

児童生徒質問紙に関する今回の調査結果からは、小学校と中学校で同じ傾向がみられる設問がいくつかありました。

横須賀市の子どもたちは、自主的な学習を計画的に取り組むということに課題があり、これは昨年度に引き続きの課題となっています。また、各教科の大切さについて問う設問では、肯定的な回答の割合が高い傾向にあるものの、「何のために学習をするのか」や「今行っている学習が、将来社会に出たときに役に立つ」といった、学習の意義を捉える意識を問う設問では、肯定的な回答の割合が低い結果となりました。自ら学習を進めていくためには、その学習の大切さをしっかりと感じることが重要です。そうした意識が高まることで、学校において課される学習内容に取り組むだけでなく、授業等の内容をしっかりと理解するために、もう一度家庭学習において振り返るといったこと姿につながります。そして、それを積み重ねることで、自らの学習における課題を把握し、その課題を解決するために計画を立てて見通しを持った学習を行うといった姿につながっていきます。

また、地域の行事に参加することや地域社会との関わりに関する設問においても、肯定的な回答の割合が低いことが、引き続き特徴として表れています。新学習指導要領では、子どもたちが地域社会の一員としての意識を高めることが「社会に開かれた教育課程」の理念からも大切だとされています。こうした意識は学校の授業はもちろん、地域との関わりを持つ機会が設定されるなど、家庭・地域との連携が不可欠です。

市内各学校においては、自校の調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしています。全体的な傾向だけではなく、問題レベルまでの分析を行い、自校の児童生徒がどの教科のどの領域に課題があるのかといった詳細な分析を行い、指導改善につなげている実践も見られます。そうした取組によって、昨年度と同集団での経年変化を視点におくと、学力向上の取組の成果が大きく表れている学校もあります。また、正答率の層がどのように分布しているのか、といった視点での分析も重要です。

今後もこれまでの取組を継続しつつ、学力向上に向けて多角的な視点を持ち、学校と家庭、教育委員会がしっかりと連携をとり、本年度の学習状況の課題を解決するべく取組を推進していきます。

4　全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取組について

本年度から、全国学力・学習状況調査の問題が、昨年度までの「A問題」（基礎）と「B問題」（活用）を一体化したものに変更となったことから、昨年度との比較は難しい部分もあるのですが、本年度の結果を見ると、小学校の国語を除いては、全国平均正答率との差は縮まってきている状況であります。

また、本年度の中学校は全教科で、昨年度に小学校6年生の時の調査と比較をすると、全教科において伸びが見られ、各教科の力をしっかりつけることができていると捉えております。

一方で、今回の結果では、英語において全国平均正答率と同等の正答率の結果となりましたが、国語および算数・数学においては小学校と中学校ともに全国平均正答率を上回る結果となりました。課題があると捉えられ、引き続き重点的に取組んでいくべきであると考えております。

児童生徒質問紙に関する今回の調査結果からは、小学校と中学校で同じ傾向が見られる設問がいくつかありました。

勉強時間については、自主的な学習を計画的に取り組むようにすることに課題があり、ここ数年間で大きな変化はありませんでした。また、生活習慣の大切さについて問うている設問では、学校生活に関する項目については、肯定的な回答の割合が高い傾向にあるものの、「朝食を毎日食べていますか」という設問では、今回の学習が、将来社会に出たときに役に立つと思っている、という設問では、学習の意義を理解している割合が高い結果となりました。自分の学習を計画的に取り組んでいる、という設問では、肯定的な回答の割合が低い傾向にあります。学習の意義を理解していても、学習の方法が分からない、という状況であると捉えられます。

また、学校において集団で学ぶことを共通認識としての調査に関する設問においても、肯定的回答の割合が低いことから、対話を積極的に取り入れた授業を行っていきます。学習指導要領では、子どもたちが社会の一員としての自覚を高めることが示されていますが、地域との関係性の強さも大切であると考えられます。このことから、学校の教育活動を通じての地域との関係の強化が期待されます。家庭・地域との連携が不可欠です。

市内各学校においては、自校の調査結果を分析し、結果と課題を明らかにしています。全体的な傾向としては、問題パターンを中心とした分析を行い、自校の児童生徒の解答状況の調査結果から、つまずきの分析を行い、指導改善につなげている実践も見られます。そうした取組によって、昨年度と同様に、本年度での結果向上に結びつくよう、学力向上の成果が大きく表れている学校もあります。また、正答率の高低にとらわれることなく、しっかりと課題に対応している学校も多くあります。

今後もこれまでの成果を継続しつつ、学力向上に向けて多角的な視点を持ち、学校と家庭、教育委員会がしっかりと連携をとり、本年度の学習状況の調査を踏まえながら取組を推進していきます。